

岩手県教職員組合カリキュラム検討委員会からの提言 「学校あるある」を見直す ①

中学校の部活動より過熱していませんか？小学校の特設クラブの常態化 ～子どもたちの権利と教職員の権利から考えよう～

●A小学校では・・・

5・6年の高学年は、陸上・水泳・金管の3つのどれかに参加する（子どもたちには、参加の意思確認はしている）陸上練習は、4月第2週の放課後からスタート。金管の練習は通年だが、学習発表会間近以外は、練習回数を減らしている。どの特設クラブについても、放課後に教職員が主体となり指導している。

●B小学校では・・・

マーチングが盛ん。学校の伝統、地域イベント等での活動を期待され、入部者が減少する中、続けてきている。しかし、ようやく今年度1年で、今後の方針を決定することに！ 担当者負担はもちろん、それをカバーする為に他職員で業務請負もあり、学校負担は大。活動費用、協賛金集め、、、と保護者の負担も大きく、それが入部者減少の一因にも。

●なんと、中学校の部活動以上のC小学校の活動時間！

D中学校は大会前こそ、部活動延長はあるが、それ以外はほぼ16時30分部活動終了、16時40分完全下校。すぐ近くのC小学校から、「金管の練習中に中学生が邪魔をしにきて困っている」と苦情の電話が。勤務時間は過ぎているし、中学生はとっくに下校している時間なんですけど。まあ、その日だけ特別に時間延長での練習？としても、

小学校の特設クラブってどうなるの？



小学校で放課後に行われている特設クラブは、教育課程外の活動。学習指導要領のクラブについては、年間授業数について具体的な明記は無い。

○学校における働き方改革に関する取組の徹底について

2019年3月18日 文部科学事務次官通知

校長は、一部の教職員に業務が偏ることのないように校内の分担を見直すとともに、自らの権限と責任で、学校としての伝統だからとして続けているが、児童生徒等の学びや健全な発達の観点からは必ずしも適切とは言えない業務又は本来は家庭や地域社会が担うべき業務（例えば、夏休みの高温時のプール指導や、試合やコンクールに向けた勝利至上主義の下で早朝等所定の勤務時間外に行う練習の指導、内発的な研究意欲がないにもかかわらず形式的に続けられる研究指定校としての業務、地域や保護者の期待に過度に答えることを重視した運動会等の過剰な準備、本来家庭が担うべき休日の地域行事への参加の取りまとめや引率等）を大胆に削減すること。

カリキュラム検討委員から

特設クラブを実施するもとなる大会自体の見直しが必要です。（見直しの根拠の一つとして、事務次官通知を提示）二戸市は、校長会が働きかけ今年度から「市内ミニバス」「市内フットサル」大会には、学校として参加対応はしないことを申し入れました。そのため、私の小学校では、今年度ミニバス特設、フットサル特設をなし！としました。勇気をもって、私たちから大胆に改革！